

昨年9月の栽培サポート課への問合せ



7月に定植したトマトの樹勢が弱く裂果する（長野 中玉トマト生産者）

芯止まりが3割以上ある。定植したときはいい苗だったのに（静岡 大玉トマト生産者）

この症状の大きな原因に繋がるのが灌水不足です。

9月になり昼間の外気温はまだまだ夏のような温度ですが、明らかに日射量は減っています。

植物は気候が安定してくるに従ってどんどん成長してくる時期。

そんな時期の灌水不足は樹勢を弱めてしまう原因になったり、カルシウムの吸収が悪くなったりします。植物の成長に合わせて液肥濃度と灌水の灌水量、灌水回数を調整していきましょう。

天候に合わせた給液管理で灌水を過不足なく行いましょう

この時期の灌水は多すぎても少なすぎても植物に影響を与えます。特に灌水不足は致命的です。

だからといって多すぎる灌水は培地内の水分率が上昇し栄養成長になりがちです。培地に合わせた灌水を行うためには常日頃から日々の給液、排水の計画などを行っておくと天候での違いにも気が付きやすくなります。

はいえき当盤



給液量と排水量を測定し、排水率を算出してくれます。排水履歴も見られるので排水の始めを把握できます。1日30回までの灌水時間を指定でき、排水量に合わせた灌水開始の有無が設定できます。

ひかり当盤



灌水制御盤に接続することで、積算日射量による灌水の開始ができるようになります。積算日射量で灌水できるので雨天などでは灌水を抑制し、晴天では灌水頻度が多くなります。

遮光カーテンに注意

9月になると日射量はどんどん減っています。外気温はまだ夏のようなのですが、日照時間も短くなっている一方、トマトの葉はどんどん展開され光合成を必要としてきます。積極的に遮光をあけていきましょう



最高日射量	(W)
8月下旬平均	800
9月上旬平均	570
10月上旬平均	720

遮光剤の除去を行いましょう

夏に塗布した遮光剤は自然に落ちるものもありますがフィルムの清掃も兼ねて除去剤を塗布しましょう。今回は除去剤について説明します。

Q: いろんな除去剤があるがどれを使用したらいいかわからない。

A: 除去剤は散布した遮光剤に合わせたものを使用してください。

遮光剤にはフィルムへの付着を強くするための成分が入っています。そのため専用の除去剤には遮光剤付着成分を分解するための成分が入っています。

Q: 遮光剤は塗布後に乾燥させないといけないが、除去剤はどうすればいいの？

A: 除去剤散布後に水で洗い流す必要があります。そのため散布後に雨が降る必要がありますので天気予報に注意して散布してください。

遮光剤	除去剤	散布目安	
レディソル レディヒート	レディクリーン (1缶20L入)	8a当り 7倍 20L+140L=160L	
エクリプスF4 エクリプスF6	エクリプスネット (1缶12kg入)	8a当り 3~5倍 12kg+36~60L=48~72L	
トランスパー	トップクリア (1缶20kg入)	8a当り 5~7倍 20kg+100~140L=120L~160L	